実務経験のある教員等による授業科目
リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻

対象学科	科目名	担当教員	担当教員の主な実務経験	授業内容
リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻	嚥下系障害学概論Ⅰ	福岡　達之	言語聴覚士として病院勤務（2002～2016）	摂食嚥下障害の定義、徴候と症状、発生機序、重症度の判定について理解し、スクリーニング検査および専門検査と間接訓練、直接訓練などのリハビリテーションについて学修する。病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	嚥下系障害学概論Ⅱ	福岡　達之	言語聴覚士として病院勤務（2002～2016）	摂食嚥下障害の評価、治療に関する知識、技術、態度を修得する。評価の手順について学び、専門検査から摂食嚥下障害の病態を判断できるようにする。摂食嚥下障害の病態と症状に応じた訓練プログラムの立案と支援の方法について学修する。病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	嚥下系障害学演習	福岡　達之	言語聴覚士として病院勤務（2002～2016）	摂食嚥下リハビリテーションの実践に必要な基本手技について、演習を通して学修する。嚥下器官の運動評価と各種嚥下訓練の演習を行う。直接訓練における姿勢調整や代償嚥下法、食事介助技術についても演習を通して理解を深める。病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	認知系障害学概論Ⅰ	沖田　啓子	言語聴覚士として病院勤務（1986～2015）	失語症の障害像と言語聴覚士としての支援の在り方を学ぶ。失語症の症状・病巣との関係・失語症のタイプ・評価方法および解釈・訓練法などの基本的な概念を学修する。病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。

実務経験のある教員等による授業科目
リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻

リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻	認知系障害学概論Ⅱ	沖田　啓子	言語聴覚士として病院勤務（1986～2015）	言語臨床で接することの多い失語症以外の高次脳機能障害と支援方法について学ぶ。失行、失認、注意障害、記憶障害、遂行機能障害、社会的行動障害などについて、症状と責任病巣、評価方法、訓練法、社会的支援方法について学修する。病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	認知系障害学演習Ⅰ	沖田　啓子	言語聴覚士として病院勤務（1986～2015）	認知系障害学概論で学修した内容をもとに、失語症および失語症以外の高次脳機能障害に対する評価、問題の抽出、訓練目標・計画の立案から訓練の一連の流れについて事例を通して学修する。病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	認知系障害学演習Ⅱ	沖田　啓子	言語聴覚士として病院勤務（1986～2015）	失語症および失語症以外の高次脳機能障害の臨床に必要な評価や訓練手技について学修する。情報収集や評価や評価の解釈、訓練法と適用について事例を通して具体的に学ぶ。病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	言語発達学	河村　あゆみ	言語聴覚士(言語療法士)として公立ことばの教室、発達障害のある子どもの支援機関（民間）に勤務(1999～2016)	前言語期～学齢期までの子どものことば・コミュニケーションの発達の様相について学修する。ことばやコミュニケーションの発達を生きた学問として理解してもらうため、絵本やわらべうたなど子どもの文化を通したワークも積極的に取り入れている。
	発達系障害学概論Ⅰ	河村　あゆみ	言語聴覚士(言語療法士)として公立ことばの教室、発達障害のある子どもの支援機関（民間）に勤務(1999～2016)	子どもの発達障害(自閉症スペクトラム障害、ADHD, LD、知的障害など)の定義、臨床像、また周囲の家族やきょうだいの心理、支援システムなど発達障害に関わる基礎知識を中心に学修する。諸機関での実務経験を生かし、基礎知識が臨床に結びつけられる課題・ワークを取り入れている。

実務経験のある教員等による授業科目
リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻

リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻	発達系障害学概論Ⅱ	河村　あゆみ	言語聴覚士(言語療法士)として公立ことばの教室、発達障害のある子どもの支援機関（民間）に勤務(1999～2016)	子どもの発達障害(自閉症スペクトラム障害、ADHD, LD、知的障害など)に対する支援の考え方の基礎知識、多様な支援方法・プログラムについて学修する。諸機関での実務経験を生かし、プログラムの立案・教材作成など実践的な授業を展開している。
	発達系障害学演習Ⅰ	河村　あゆみ	言語聴覚士(言語療法士)として公立ことばの教室、発達障害のある子どもの支援機関（民間）に勤務(1999～2016)	子どもを対象としたフォーマルなアセスメント・言語検査、知能検査、認知検査の理論的背景、内容、実施法について学修する。諸機関での実務経験を生かし、検査の実際について具体的に理解できる授業を展開している。
	発達系障害学演習Ⅱ	河村　あゆみ	言語聴覚士(言語療法士)として公立ことばの教室、発達障害のある子どもの支援機関（民間）に勤務(1999～2016)	子どもを対象としたフォーマルなアセスメント・言語検査、知能検査、認知検査の演習を行う。インフォーマルなアセスメントに重要となる観察力を養うために発達障害当事者の書籍のブックレポートも課している。諸機関での実務経験を生かし、演習で行うペアワーク、グループワークに対して実践的な観点からのフィードバックを行っている。
	音声学	安原　幸美	言語聴覚士として病院勤務 （1995~2008） 広島大学病院で助教 （2008~2017）	言語聴覚士が構音障害を改善する時に必須となる日本語音声学の基本的知識を学修する。実務経験及び研究を活かし、より実践的な授業を展開している。
	発声発語系障害学概論Ⅰ	安原　幸美	言語聴覚士として病院勤務 （1995~2008） 広島大学病院で助教 （2008~2017）	小児から成人・高齢者に至る幅広い年齢層の構音障害（機能性構音障害、器質性構音障害、運動性構音障害）について学修する。実務経験及び研究を活かし、より実践的な授業を展開している。

実務経験のある教員等による授業科目
リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻

リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻	発声発語系障害学概論Ⅱ	安原　幸美	言語聴覚士として病院勤務 （1995~2008） 広島大学病院で助教 （2008~2017）	言語聴覚士が行うべき問診、生育歴調査、医学的・心理的関連情報などの収集、症状から構音の状態を判断し必要な検査が選択できるようになるまでの過程を学修する。実務経験及び研究を活かし、より実践的な授業を展開している。
	発声発語系障害学演習	安原　幸美	言語聴覚士として病院勤務 （1995~2008） 広島大学病院で助教 （2008~2017）	構音障害や音声障害等の症状から最適な検査の選択、評価・分析を演習を通して、言語聴覚士として必要な発声発語系障害の一連の臨床改善過程を学修する。実務経験及び研究を活かし、より実践的な授業を展開している。
	聴覚系障害学概論Ⅰ	國末　和也	小学校・特別支援学校に勤務 （1981～2005）	聴覚の構造と機能及びその障害、聴覚検査法を含む聴覚障害の評価・診断に必要な基礎的知識を学修する。難聴・ろう教育に携わった教育現場での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	聴覚系障害学概論Ⅱ	國末　和也	小学校・特別支援学校に勤務 （1981～2005）	聴覚障害の評価及び診断法、聴覚障害によるコミュニケーション障害とその対策、リハビリテーション方法等を学修する。難聴・ろう教育に携わった教育現場での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	聴覚系障害学演習Ⅰ	國末　和也	小学校・特別支援学校に勤務 （1981～2005）	聴覚障害の評価・診断に必要な聴覚検査法や指導法について学修する。難聴・ろう教育に携わった教育現場での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	聴覚系障害学演習Ⅱ	國末　和也	小学校・特別支援学校に勤務 （1981～2005）	聴覚障害児・者への聴覚補償としての補聴器のフィッティングや人工内耳のマッピング、装用効果の評価について演習を通して学修し、臨床的スキルを修得する。難聴・ろう教育に携わった教育現場での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。

実務経験のある教員等による授業科目
リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻

リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻	特別支援教育概論	國末　和也	小学校・特別支援学校に勤務（1981～2005） ノートルダム清心女子大学非常勤講師（2010～現在に至る） 川崎医療福祉大学非常勤講師（2016～2019）	特別な支援を要する幼児児童生徒に関わる教育の制度及び実態を概括し、学校教育や特別支援教育を理解し、教育場面における障害児との関わり方・支援法を学修する。難聴・ろう教育に携わった教育現場での勤務経験や特別支援教育に関わる教職科目の非常勤講師を務めた経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
	言語聴覚障害学概論Ⅰ	國末　和也	小学校・特別支援学校に勤務（1981～2005）	言語聴覚士の業務や職業倫理、言語聴覚療法の総論内容を学修する。教育や病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
		沖田　啓子	言語聴覚士として病院勤務（1986～2015）	
		福岡　達之	言語聴覚士として病院勤務（2002～2016）	
	言語聴覚障害学概論Ⅱ	國末　和也	小学校・特別支援学校に勤務（1981～2005）	発声発語系、発達系、認知系、聴覚系、嚥下系、それぞれの言語聴覚障害の症状と原因の把握、診断、指導の実際について学修する。教育や療育施設、病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
		沖田　啓子	言語聴覚士として病院勤務（1986～2015）	
		福岡　達之	言語聴覚士として病院勤務（2002～2016）	
		河村　あゆみ	言語聴覚士として公立ことばの教室、発達障害のある子どもの支援機関（民間）に勤務(1999～2016)	
		安原　幸美	言語聴覚士として病院勤務（1995~2008）	

実務経験のある教員等による授業科目
リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻

リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻	臨床研究Ⅰ	國末　和也	小学校・特別支援学校に勤務（1981～2005）	言語聴覚障害領域における研究方法の種々の類型、実験的並びに臨床的研究、質的研究等について学修する。教育や療育施設、病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
		沖田　啓子	言語聴覚士として病院勤務（1986～2015）	
		福岡　達之	言語聴覚士として病院勤務（2002～2016）	
		河村あゆみ	言語聴覚士として公立ことばの教室、発達障害のある子どもの支援機関（民間）に勤務(1999～2016)	
		安原　幸美	言語聴覚士として病院勤務（1995~2008）	
	臨床研究Ⅱ	國末　和也	小学校・特別支援学校に勤務（1981～2005）	地域リハビリテーションの歴史的・社会的背景、地域言語聴覚療法における言語聴覚士の役割を理解し、地域リハビリテーションの基本的概念を修得する。教育や療育施設、病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
		沖田　啓子	言語聴覚士として病院勤務（1986～2015）	
		福岡　達之	言語聴覚士として病院勤務（2002～2016）	
		河村　あゆみ	言語聴覚士として公立ことばの教室、発達障害のある子どもの支援機関（民間）に勤務(1999～2016)	
		安原　幸美	言語聴覚士として病院勤務（1995~2008）	

実務経験のある教員等による授業科目
リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻

リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻	卒業研究	國末　和也	小学校・特別支援学校に勤務（1981～2005）	学修した専門知識や臨床実習等で得た経験等を基礎として、学生自身が関心のある研究課題を選定し、卒業研究論文を執筆する。教育や療育施設、病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
		沖田　啓子	言語聴覚士として病院勤務（1986～2015）	
		福岡　達之	言語聴覚士として病院勤務（2002～2016）	
		河村　あゆみ	言語聴覚士として公立ことばの教室、発達障害のある子どもの支援機関（民間）に勤務(1999～2016)	
		安原　幸美	言語聴覚士として病院勤務（1995~2008）	
	言語聴覚学演習	國末　和也	小学校・特別支援学校に勤務（1981～2005）	言語聴覚障害学の総まとめとして、これまでの講義や演習、さらに臨床実習等で学修してきた言語聴覚士として必要な知識と技術の総復習を行なう。教育や療育施設、病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
		沖田　啓子	言語聴覚士として病院勤務（1986～2015）	
		福岡　達之	言語聴覚士として病院勤務（2002～2016）	
		河村　あゆみ	言語聴覚士として公立ことばの教室、発達障害のある子どもの支援機関（民間）に勤務(1999～2016)	
		安原　幸美	言語聴覚士として病院勤務（1995~2008）	

実務経験のある教員等による授業科目
リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻

リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻	言語聴覚特別講義Ⅰ	國末　和也	小学校・特別支援学校に勤務（1981～2005）	臨床実習に必要な言語聴覚療法を確認し、専門的知識や臨床的実践力高め、臨床的応用力を修得する。教育や療育施設、病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
		沖田　啓子	言語聴覚士として病院勤務（1986～2015）	
		福岡　達之	言語聴覚士として病院勤務（2002～2016）	
		河村　あゆみ	言語聴覚士として公立ことばの教室、発達障害のある子どもの支援機関（民間）に勤務(1999～2016)	
		安原　幸美	言語聴覚士として病院勤務（1995~2008）	
	言語聴覚特別講義Ⅱ	國末　和也	小学校・特別支援学校に勤務（1981～2005）	発声発語系、発達系、認知系、聴覚系、嚥下系、それぞれの言語聴覚障害学の学修内容を再確認し、理解を深める。教育や療育施設、病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。
		沖田　啓子	言語聴覚士として病院勤務（1986～2015）	
		福岡　達之	言語聴覚士として病院勤務（2002～2016）	
		河村　あゆみ	言語聴覚士として公立ことばの教室、発達障害のある子どもの支援機関（民間）に勤務(1999～2016)	
		安原　幸美	言語聴覚士として病院勤務（1995~2008）	

実務経験のある教員等による授業科目
リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻

リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻	加齢医学	三森 康世	医師として病院勤務（1976～1986）	高齢者の疾患や障害を理解する基本になる、老化の機序、加齢に伴う生理的・病的変化、高齢者疾患の特徴、高齢者の種々の評価について学修する。その上で高齢者によく見られる疾患、症候について学び、それらに対する対応法を習得する。高齢者を取り巻く社会的環境や終末期ケアについても学修する。授業内容のすべてに医師（専門医）として関わってきたことを活かして実践的な授業を展開する。
	カウンセリング	鶴田 一郎	専門学校教員の校務分掌としての教育相談係を務める（1989～1991）	本講義では対人援助技術の一つとしてカウンセリングの理論と技法を学ぶ。つまり、まずカウンセリング理論の構成を知り、次にその理論展開のための技法を実地で学ぶこととなる。その際、担当教員の実務経験を授業の解説に生かしているが、具体的な事例については守秘義務のため例外なく一切紹介していない。
	音楽療法概論	小坂 哲也	非常勤の音楽療法士として病院に勤務（1999～2019）	各領域別に音楽療法の流れや他職種との連携をセッション事例やプログラム例に沿って把握すると共に、音楽療法の現状 や今後の課題について検討する。病院での勤務経験を活かし、事例を基に、より実践的な授業を展開している。
	教育学	岡田大爾	高校勤務 (1985~1986) 中学校勤務 (1986~2005)	・ゆとり教育論や学力論、評価等について多くの誤解がある中で、諸外国の例も含めてわかりやすく解説する。 ・自分自身の「教育」経験の範囲を超えて、現代の「教育」が抱え込んでいる様々な問題の解決方法を考える。 ・教育現場及び家庭や社会における諸課題に対応するため、将来の子育てにも役立つように実践的に考察する。

実務経験のある教員等による授業科目
リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻

リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻	情報基礎演習	糸川裕子	SE としてソフトウエア開発業務に従事（2000 年）	実社会で有益なソフトウエアの利用方法を教授する。
	情報倫理・応用演習	糸川裕子	SE としてソフトウエア開発業務に従事（2000 年）	実社会で有益なソフトウエアの利用方法を教授する。
	情報発展演習	糸川裕子	SE としてソフトウエア開発業務に従事（2000 年）	実際のソフトウエア開発業務のプロセスに沿ったプログラミングを経験する.
	専門職連携基礎演習Ⅱ	井山慶信	赤十字救急法指導員として、県内の教育機関や地域等で、救急法講習を多数実施（2009～現在）	一次救命処置（心肺蘇生やＡＥＤ等）を担当。学外での実務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。